

イサク ②

## □イサクの信仰の手本

1. 土地の約束と子の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した。このとき、イサクは30歳代の壮健な青年であったが、父アブラハムに逆らわず、従い通した。
2. 父アブラハムと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。
3. イサクは、双子の息子エサウとヤコブをもうけた。出産のときに神はアブラハム契約の継承者は弟のヤコブになるという預言を与えていたが、イサクは兄のエサウの方を愛し、エサウを選ぼうとした。しかし、妻リベカと子ヤコブによる偽計事件を受けて、神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、確信をもって、未来のことについてヤコブとエサウを祝福した。

□本日の内容 2番 「父アブラハムと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。」 今回は、創世記26章を中心に、イサクの生き方を見ます。

## (1) イサクについて

- ① 創世記21章から25章では、アブラハムの息子として登場する。
- ② 27章から28章では、ヤコブの父として書かれている。
- ③ イサクが主役になるのは、26章だけである。26章で重要なのは、アブラハム契約の再確認が2度も出て来ること。イサクがアブラハム契約の継承者となった。

## (2) 26章の出来事の前に

- ① イサク37歳のとき、母サラが死去（創23：1～2）
- ② イサク40歳のとき、リベカと結婚（創24章、25：20）
- ③ イサク60歳のとき、双子の息子たち、エサウとヤコブが誕生（創25：21～26）
- ④ エサウとヤコブが若者に成長した（創25：27～34）あと、26章の出来事が起きる。出来事は大きく分けると、5つ。

## (3) 26章の出来事、第一：ききん（創26：1～11）

- ① 1節「さて、アブラハムの時代にあった先の飢饉とは別に、この国にまた飢饉が起こった」とある。「先の飢饉」とは、12章に記録された飢饉である。この時、アブラム（改名前）はエジプトへ避難した。
- ② 飢饉に際してイサクもエジプトへ行くつもりで、経由地ゲラルに来た。1節には「ゲラルのペリシテ人の王アビメレクのもとへ行った」とあるが、当時ペリシテ人はゲラルの地域には、まだいない。これは歴史を先取りした表現で、【後にペリシテ人が住むようになる地】という意味。アビメレクとは、その地域の王の称号であり、個人名ではない。なお、ゲラルは「約束の地」の範囲の中。

- ③ イサクには経由地のつもりだったゲラルに来たとき、神がイサクに現れ、次のように言われた。「エジプトへは下ってはならない。わたしがあなたに告げる地に住みなさい。あなたはこの地に寄留しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福する」(2～3節)。こうしてイサクはゲラルに住んだ(6節)。
- (4) 26章の出来事、第二：富み栄えるも妬まれて、寄留先から追い出される(創26:12～17)
- ① イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。主は彼を祝福された。こうして、この人は富み、ますます栄えて、非常に裕福になった。(12～13節)
- ② イサクが羊の群れや牛の群れ、それに多くのしもべを持つようになったので、ゲラルの人々は彼をねたんだ。それで彼らは、イサクの父アブラハムの時代に父のしもべたちが掘った井戸を、すべてふさいで土で埋め戻した。(14～15節)  
これらの井戸は、「ベエル・シェバ」とアブラハムが呼んだ地域にあった。先代のアビメレク(王)がアブラハムの掘ったものであることを認め、アブラハムとその子孫を裏切らないと誓約したものであった(創世記20章)。
- ③ アビメレク(王)は、イサクにゲラルから出ていくことを要求した(16節)。
- ④ イサクは、ゲラルを去り、ゲラルの谷間に天幕を張って、そこに住んだ。(17節)
- (5) 26章の出来事、第三：奪われても争わず、井戸を掘り続ける(18～22節)
- ① 次の寄留先、ゲラルの谷間にも、かつて父が掘った井戸の跡があった。父の死後、地元の人々がふさいだのであった。イサクはそこを掘り返して、それらに父がつけていた名と同じ名をつけた。(18節)
- ② その地域のほかの箇所を掘っていたら、湧き水の井戸を見つけた。しかし、地元の羊飼いたちが、その水は自分たちのものだと言いを仕掛けて来たので、イサクは引いた。イサクはその井戸の名を「エセク」(争い)と呼んだ。(19～20節)
- ③ もう一つの井戸を掘ったら、そこでも水が出た。しかし、またしても、地元の羊飼いたちが争いを仕掛けて来たので、ここでもイサクは引いた。イサクはその井戸の名を「シテナ」(敵意)と呼んだ。(21節)
- ④ イサクはそこから移って、もう一つの井戸を掘った。その井戸については争いがなかったので、その名を「レホボテ」(広い所)と呼んだ。そして彼は言った。「今や、主は私たちに広い所を与えて、この地で私たちが増えるようにしてください。」(22節)
- (6) 26章の出来事、第四：レホボテからベエル・シェバに上ると、その日の夜、主がイサクに現われ、アブラハム契約継承の再確認をする。イサクのしもべたちはベエル・シェバで井戸掘りに着手する。(23～25節)
- (7) 26章の出来事、第五：アビメレクがイサクを恐れて、同盟関係を求めて来る。盟約を結んで一行を送り出した、ちょうどその日に、水を掘り当てたとの報告が届いた。イサクはその井戸の名を「シブア」(誓い)と呼んだ。(26～33節)